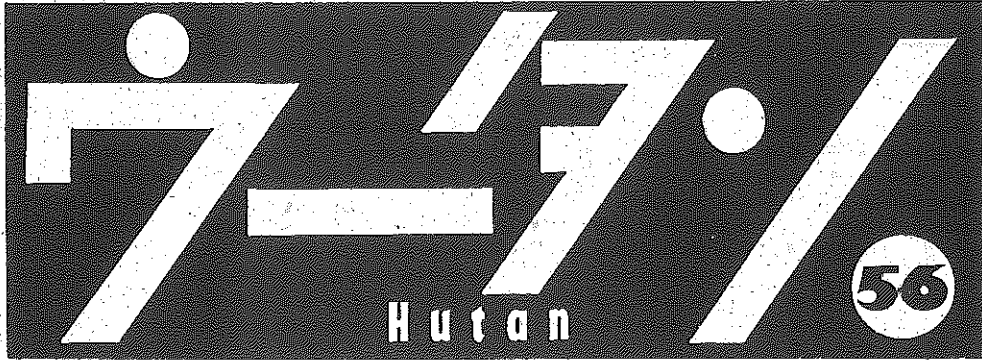


Save The Tropical Forests



森の通信

2000.7.4

- ◆日本初!「FSC」  
森林認証取得  
(WWFより)
- ◆「エケアドルでの  
ボランティア」  
面村久美子
- ◆真・日本林業論⑦  
猪俣栄一
- ◆世界の森林問題  
ニュース
- ◆自治体キャンペーン  
報告「寝屋川市」



【マレーシア・ガラワク州  
カヤン人の正装】  
photo: 峠隆一



毎度デス。。。  
①

「コーナンの木」を見てきたよ  
(うしだひとし)

みなさん、ホームセンターって行かれましたか？先日「コーナンのチラシに、北洋材・米松」と載っていたので見に行きました。そしたらあるんです、いろいろと。輸入木材の展覧会（？）のようにね。店にある、これらの木材を見て思った。50センチのついで、国産の間伐材は使えないのか？サイズを見る限り、間伐材で充分なんだよ。

とにかく、製材品は北洋材つまりロシア材や米松、米松など北米材あり、キョウに意外だがフィリピン産ラワンもあるのだ。ロシア、北米のみならず、森を破壊し尽くされた国から輸入しているとは。そして自立つのが中国産。雲南省産の白松など、中国からの木材がけっころ多いのだ。だいたい、すのこなど、ちよっとした製品にも中国産が目立っているみたい。

間伐材でいけるはずなのに、海外の森林に資源を求めている例のひとつやね。こういった事例が、海外の森林破壊を助長するのだろうか。  
（こんな例、ほかにも見つけたら教えてね）

【ウータン活動報告】

- 2000・2・26 アースディおおさか「学習会」に参加/奥村、篠宮、西岡
- 3・4 AMネット等の主催「WTO問題」懇談会に参加/西岡(報告は前号参照)
- 3・11 「環境教育チーム」ミーティング/奥村、米澤、笠原、春日など
- 3・16 アースディおおさか運営会議に参加/西岡
- 3・28 通信『ウータン55号』発行
- 4・1 アースディおおさか運営委員会に参加/西岡、藤村ほか
- 4・3 グリーンピース・ジャパン呼びかけの環境庁長官への「違法伐採中止」について、ウータンも賛同し、グリーンピース・ジャパンら提出。
- 4・5 「森林問題に関する」G8環境大臣会合向け文案、AMネット等と賛同をまとめる。
- 4・7 ウータン、AMネット、JATAN、SCCほか、オーストラリアの雨林センターを含め13ヶ国、45団体賛同の『G8環境大臣会合に対して森林問題に関心を寄せる市民NGOアピール』を気候ネットワーク等を通じて文書手渡す。
- 4・8 世界GLOBE総会で総裁・堂本議員、議長・橋本元首相にG8環境大臣向けの同アピール文書手渡す。農林政務次官・谷津議員と懇談/西岡、AMネット・川上ほか
- 4・9 アースディおおさか運営委員会に参加/西岡、奥村ほか
- 4・15 アースディおおさか運営委員会に参加/西岡
- 4・17 アースディおおさか運営委員会に参加/西岡
- 4・22 アースディおおさか集會参加/藤村、篠宮、奥村、西村、西岡、川本ほか
- 4・28 講座『森林どんぶり』打合せ/篠宮、荒川、川本
- 5・12 『森林どんぶり』第1回「森と生きる-いま、森はどうなっているの?-アジア・中南米は」話し手/西岡、西村久美子
- 5・19 AMネットでWTO問題打合せ/参加\*西岡
- 5・24 AMネットでWTO問題打合せ/参加\*西岡
- 6・9 『森林どんぶり』第2回「暮らしの中の熱帯」-ヤシ・バナナ・アイスクリーム・家具-話し手/荒川共生
- 6・12 自治体キャンペーン-寝屋川市環境政策課と-永田、井下、西岡、牛田

→ 本誌は再生紙を使用しています。  
【表紙】新草木染・ハーブ(64.5kg、古紙40%)  
【中紙】バガス(55kg、非木材紙50%、古紙35%)

# ひさしぶりの自治体キャンペーン

- 寝屋川編 - “錦の御旗”がないとダメ? (牛田等)

6月12日に寝屋川市と懇談を行なった。担当は環境政策課で、中山係長と松浦氏が応対された。しかし、熱帯材の使用削減、さらに環境を考えた施策を求められても、環境政策課や関係部署の裁量ではできない、と担当者は話した。市長以下、市として策定される基本計画などの“錦の御旗”がないと、具体的な事はできへん… そうな。なお日程が急に決まってしまい、寝屋川のオマに参加してもらった事はできなからた。寝屋川の会員サン、ごめんなさい。

## 熱帯材の使用削減について

市では、熱帯材の使用量の把握をまずやってほしい。各部署の担当者には、熱帯材の使用削減が必要との認識はあるそうだ。しかし、担当者レベルで具体的なとり組みは成されない。なんとか一歩を踏み出して下さい。

## 建設物の環境負荷について

寝屋川市も財政がキツいようで、いま新規着工される公共の建物は少ない。しかし、建替えと補修ではどちらを重視するのか、ちゃんとした方針を持ってほしい。建物は、補修を重視して長持ちさせることが、求められている。

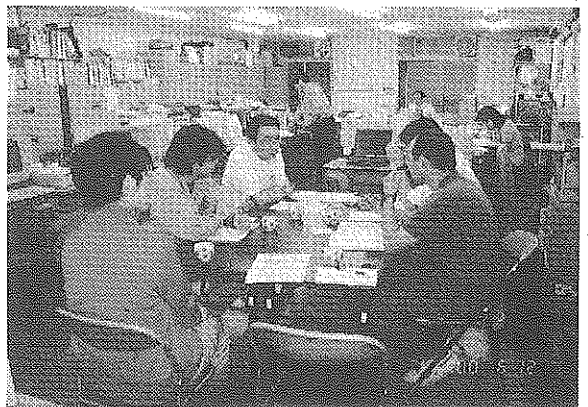
新規に建てる時に、省エネ・省資源型を追求しようという発想も持ってほしい。いまのところ、その様な発想には至っていないから。つまり、予算額はあらかじめ決められている。そこで、環境を考えたモノを導入した場合とそうでない場合を天秤にかけて、そうでない場合の方が安上がりなら、環境型のモノは採用されないのだから。それやったら、いつまでたっても変わらへんやんけ〜と、ツッコミたくもなるテスト。

とにかく、環境を考えた施策を行なっていくのなら、まずトップから、上の方から…と、係長は強調していた。しかし、担当部署のレベルで何かやれることはないのか、と考えてほしい。トップダウンでないとダメ、ではないはず。

## 紙や家具類の再利用、使用削減

コピー用紙は再生紙を使っているという。今後は紙の使用量の減らす方向で考えているとのこと。ぜひやって頂きたいものだ。

家具類の再利用を促すために、市は広報紙に、家具を売りたい人の情報を載せている。



## 川から環境を考える

寝屋川という川を見つめることから環境を考えよう、環境政策課は今、市民に向けたこんな取りくみを始めようとしている。大人が参加する「エコクラブ」のようなものを立ち上げようとしているのだ。市の担当部署レベルから打ち出された企画であり、これが軌道に乗って行けば、なかなか興味深い。

環境政策課は、来年度のうちに出来上がる予定の環境基本計画づくりの中心である。これからの注目しよう。

4月7～9日、滋賀の天津でG8環境相会合と世界GLOBE会議が開かれた。我々がG8環境相に会えないけど気候ネットワーク等が会えるので、AMネット、サラワク・キャンペーン・委員会、私たちウータン等で国内外の森林グループ等呼びかけアピールの賛同を計った。急なお願いで集約が大変だったが、13ヶ国、45団体の賛同を持って提出した。世界GLOBE会議へは議長の前橋本龍太郎元首相、総裁の堂本暁子議員に同じ文書を渡し、お願いした。また谷津議員と30分あまり懇談することが出来た。谷津議員(農林政務次官)は、「WTO等同じ意見が多い。共に歩むことも必要」と話され、今後WTO(世界貿易機関)やITTO(世界熱帯木材機関)問題に勇気が持てる。

#### 【森林破壊を悪化させる大規模植林・クリーン開発メカニズムの承認】

G8環境相会合は予想どおり秘密裡に進められ、温暖化原因の温室効果ガス削減率の「発効期限」が焦点となった。日本・EUが「2002年から」に対し、米国、カナダは「できるだけ」と引き伸ばしを図って、「2002年までにということの意味する」という“玉虫色”の共同宣言となった。

#### 【違法伐採やITTOの2000年目標にふれず】

私たちが提起した森林問題について、違法伐採やITTOの2000年目標である《熱帯木材貿易の対象を持続可能な森林経営に基づき生産された木材のみとする》ことを守るべきに、G8環境相は触れず、「『森林に関する政府間フォーラム』(IFF)及び『森林に関する政府間パネル』の行動提起を直ちに実施に移すことを強く求める」とどまった。

#### 【一定評価できる多国間環境協定やWTO問題】

一方、私たち主張の2項目には「輸出信用機関は環境配慮を推進するべきで、共通の環境ガイドライン設定を設けて、OECDでの行動声明や作業計画を歓迎する」とし、4項目の多国間環境協定(MEAs)については「この分野における不法行為と闘う必要性を認識し、全面的に支援」に一定の評価ができる。

また3項目のWTOについて、「貿易と環境に関するアジェンダを前進させるよう、次期ラウンドでは環境配慮が十分に考慮されることが重要で」、「地球規模で生態的な対応が可能な環境取決めと環境機関の枠組みでグローバリゼーションが持続可能な開発を支える努力を強化する」とのおもしろい声明となった。

他の主要議題は、「21世紀の持続可能な開発」、「環境と健康」、「これまでのG8環境相会合のフォロー・アップ」であった。

温暖化問題は、新たな大規模植林を認めるためのCDM(クリーン開発メカニズム)の推進で、私たちの主張と相反するものになった。



▲会場の関係者は8日午後から比叡山を視察。フランスのボワケ大臣(中央)にミニサイズの盆栽を手渡し「原生林の違法な伐採の問題を会合で取り上げてほしい」と訴えるグリーンピースのメンバー

#### ●日本連絡先:

川上豊幸、APECモニターNGOネットワーク (AMネット)、  
電話&FAX 06-4800-0888  
大阪市北区国分寺1-7-14 国分寺6F E-mail: apccngo@mx.mesh.ne.jp  
http://www1.mesh.ne.jp/~apccngo

西岡良夫、ウータン・森と生活を考える会、電話&FAX 0722-52-0505  
大阪市北区中崎町中崎西1-6-36-308 E-mail: fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

松本郁子、地球の友・ジャパン、電話:03-3951-1081、FAX:03-3951-1084  
東京都豊島区目白3-17-24-2F, 171-0031, Japan  
E-mail: aic@foejapan.org, http://www.foejapan.org

## G8環境大臣会合に対する森林に関心を寄せる市民・NGOアピール

西暦2000年4月

私たちは、世界の森林の状況に、大きな関心を寄せている市民及びNGOです。

G8各国は、1998年に、「森林に関する行動計画」を実施することを決定し、2000年のサミットでは、この森林に関する行動プログラムの進捗状況について報告することにもなっています。

私たち、以下に署名した団体は、G8環境大臣会合が次の行動を行なうことを要請します。

1. 環境的、社会的に害をもたらす形で、G8各国の企業に経営された区域から採取された林産物や、木材の違法取引や不正取引を監視し、これを阻止すること。

また、「熱帯木材貿易の対象を持続可能な森林経営に基づき生産された木材のみとする」という国際熱帯木材機関の2000年目標を守るべきである。「森林に関する行動計画」では、木材の違法取引について、即刻、実施すべき5つのポイントが指摘されている。

2. G8各国企業による国外での国際的商業活動をチェックし、規制するようなシステムを確立すること。

これらの企業や金融機関が、社会・環境上の持続可能性を脅かすような形で操業することが許されるべきではない。

また、1999年のケルンサミット・コミュニケの第32項を実施する上では、輸出信用機関などの金融機関による資金フローや支援に対して、最低限のガイドラインとして世銀グループの基準を適用すること。

このためには、透明性と市民参加を確保した形での環境社会ガイドラインを作成することが、その最初のステップとなる。

3. WTO（世界貿易機関）での貿易・投資自由化の交渉を一旦中止することを要請し、WTOの意思決定プロセスの民主性と透明性を確保することを最優先すること、及び、十分な透明性と市民参加との下でこれまでの貿易・投資自由化の見直しや環境社会影響評価を実施することをWTOに関する議論において要請すること。

こうしたレビューや環境社会影響評価は、世界の人々や生態系にとって重要な社会的、環境的価値の保護にとって必須の要件である。しかし、WTOは、第三回シアトル閣僚会議が宣言文を採択できなかったにもかかわらず、貿易・投資自由化の交渉を開始した。G8各国は、シアトルで世界各国の市民・NGO、さらには数十ヶ国にもおよぶ途上国政府が閣僚宣言案の採択を阻止した事実を真摯に受けとめねばならない。

4. 先住民や、南の人々に特別の配慮を伴った上で、環境、社会の価値や持続可能性を維持し、あるいは回復するため、関税措置及び非関税措置を含めた貿易に関連する政策および措置を利用する国家、自治体、市民としての権利をWTOが認めることを確実にすること。また、多国間環境協定は、WTO協定に優先することを確認すること。

これらの政策及び措置政策に対しては、環境等への影響を未然に防ごうとする「予防原則」が尊重され、適用されるべきである。

5. 温室効果ガスの排出削減においては京都議定書3条3項、4項を利用することや、他のメカニズムによって、各国の負担を他の国々に不当に移転することで、義務逃れをしようということをしめること。

特に、森林破壊をさらに悪化させる商業利用を主目的とした大規模植林プロジェクトは、共同実施、クリーン開発メカニズムや炭素クレジットの国際取引のような措置の対象から除外すべきである。

## FSC認証を取得して

— F S Cの精神は森林管理に倫理観を要求していると感じました—



2000年2月にF S C認証が、審査をした米国カリフォルニア・オークランドにあるSCS (Scientific Certification Systems) から送付されました。

20世紀の最後の年で、2000年代の始まりの年に、日本で最初のF S C認証を取得したことをうれしく思います。20世紀後半、人類は「人の命を守る」という「安全」を極めて崇高な目標として掲げました。21世紀、今度は「地球の命を守る」という「環境」が「安全」と並んで重要な目標となると思っています。この二つは単なる拝金主義に陥りがちな、資本主義に対し倫理観を突きつける監査の役割を果たすでしょう。私は審査を経験して、F S Cの精神は森林管理に倫理観を要求していると感じました。

速水林業は、1,070haの森林を紀伊半島の南部、熊野灘に面した海山町で経営しています。当地は古くから森と人間とが深い関わりを持ちながら生活してきた所です。速水林業も1790年から当地でヒノキを植えて林地を常に循環利用してきました。この循環利用こそ人工林林業の持続的森林経営の証明になっています。

今回の認証は人工林として審査されました。人工林のみでの認証は2月末においてF S C全認証件数194件の内18件しかありません。日本では「杉を植えすぎた」とする人工林批判があります。林業は自然とほどほどの付き合いをしながら、合理的に市場に木材を供給できる体制だと思っています。合理的な人工林管理があつてこそ、貴重な天然林などを守っていけます。しかしそのためには、人工林管理が単なる循環利用にとどまらず、環境面では水系汚濁の防止から、水生生物の生息環境、森林景観、もちろん森林内の植物や動物への配慮、そして環境的配慮とは別に森林管理がその地域社会とどのように関係しているかの状況まで含めて、より良き状態を維持し、あるいは創り出さねばなりません。持続的木材生産とこれらの両立こそがF S Cの求めているところです。

ところが現在、国内の林業経営は、極めて苦しい経営状態となっています。森林が伐採された跡が植えられないまま放置されていたり、植えたままで必要な手入れがされていなかったりする森林が増加し

ています。このような現状の中で速水林業が持続的森林経営を認証するF S C認証を取得したことは、沈滞した日本の林業に一石を投じたと思います。

さて、私の認証ですが98年の秋から認証を取得する方針を固め、1年後の99年9月にSCSのフルービーズ博士、(有) 富村環境事務所の富村氏、京都大学助教授の芝氏、東京大学助教授の白石氏の4名の審査官と日本側事務局の(株)スミエイトの伊藤氏によって、審査を受けました。

審査にあたっての書類は、以前から運用してきた森林施業計画の英訳版を基礎に環境的な配慮や規則を別に作成しました。速水林業の森林施業計画は、経営の目的や方針、施業の方法、労働対策、販売対策、林道、機械化など多岐にわたって書かれており、これで速水林業のすべてがわかるようになっていました。もちろん添付されている森林現況を表す諸表や計画も利用しました。また、森林に関しては戦後、私の父が林業に携わってから、常にヒノキの林の中に草や広葉樹を繁茂させ、表土流失を防ぎ地力の維持を図ってきました。私が21年前に経営に関与するようになり、地力維持の目的を森林の環境管理とし、上層に経済的なヒノキ、中層に広葉樹を誘導育成し、下層に当地の優勢下層植生であるウラジロシダを中心とする草本を繁茂させることで立体的な育成を図っています。またこの10年ほどは従業員も環境的な配慮を自らが考え現場で可能な努力を続けています。例えば、チェーンソーのチェーンオイルを分解のしやすい植物性のオイルに変えたり、作業時に下草や広葉樹を維持する配慮を行ったり、あるいは小さなことですがタバコの吸殻を含めて森林にはごみを決して捨てないなど高い環境意識を持つに至っています。これらの積み重ねの結果として書類も現場もスムーズに認証に臨めました。

今回の認証は、地元の製材業の塩崎商店、木工所のウッドメーカー北村の2つも共に流通の認証であるCoC認証を取得しました。FSCは現在まだ消費者には認知されてはいませんが、国内にもバイヤーズグループが作られます。早い時期に日本でも認証が経済的な裏付けのある制度になることを願っています。

# 日本初！森林認証取得



## 森を守る取り組み — 森林認証制度

現在、WWFが世界各地で展開している「WWF生命の森 (Forest for Life) キャンペーン」の目標は二つ。一つは、さまざまなタイプの森林を保護区に指定して保全すること。そしてもう一つは、環境保全と、社会的・経済的な利益にかなった、森林の管理を推進することです。

この「森林の管理」とは、伐採が森林全体の環境を悪化させるほど大規模かつ集中的に行なわれていないか、経済的利益は維持されているか、地域社会や先住民の生活に悪影響を及ぼしていないか、などについて一定の基準を設け、森林を管理していくことです。管理された森林が広がってゆけば、保全される森林環境も広がり、木材を持続的に活用していくことにもつながります。

このように、適切に管理された森林を、審査認証していく制度を「森林認証制度」といいます。審査を行なうのは、中立の独立した第三者機関。現在、世界中の森林を対象として、この「森林認証制度」を実施している機関が、FSC (Forest Stewardship Council: 森林管理協議会) です。



## 認証された「日本の森」

日本はその木材需要量の約八割を海外に頼っており、世界でも最大規模の木材輸入国。消費者としての責任は、国際的にも非常に大きいといわねばなりません。そんな日本での森林認証制度の展開に、今、世界が注目しています。日本国内で認証を受けた木材・木材製品の需要が伸びれば、海外の木材輸出国でも、認証制度への関心が一層高まるからです。この関心の高まりは、現地での森林保全を大きく前進させることにつながるでしょう。

環境に配慮することが、新しい林業を生む……そんな意識の広がりが、実際にFSCを日本に導入する、大きな土台になったことは間違いありません。海外の認証機関の関係を招いてFSCの詳細や、認証された木材・木材製品を扱う企業、取り組み等を具体的に紹介したワークショップを開催した時も、多くの方の参加を得ることができました。

こうして、さまざまな関係者と意見交換を重ねてきた結果、ついに、今年二月、三重県の速水林業 (\*1) が所有・管理する森林、一〇七〇ヘ

クタールが、このFSC認証を国内で初めて取得しました。

さまざまな議論を呼んでいた「持続可能な森林の管理・経営」の在り方。その一つの具体例を、今回の国内初のFSC認証が、日本の林業関係者、研究者、森林政策決定者に示すことになりました。

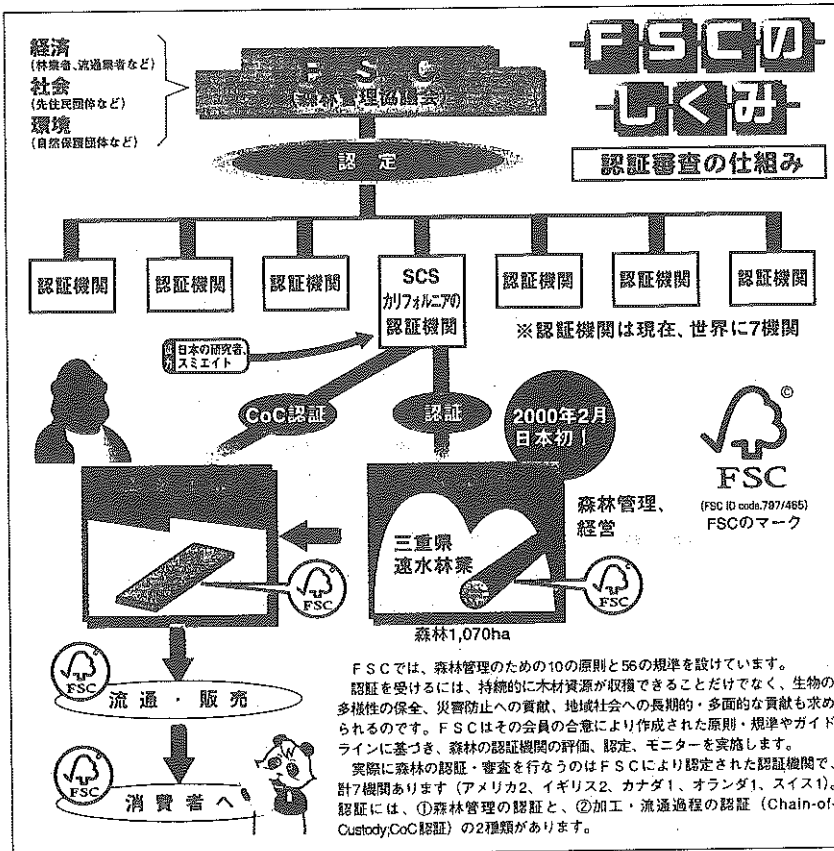
\* もっと詳しく知りたい方は  
こちらまで **wwf Japan**  
Tel. 03-3769-1711

今回の速水林業認証審査概要レポートおよび認証審査に使われた基準はこちらから入手できます。

\* FSC入会申し込みについては、WWF森林係までお問い合わせください。

\* FSCについての詳しい内容は、WWFジャパンのホームページでご覧いただけます。「活動紹介」の中の「森林保護事業」を選んでください

<http://wwfjapan.aapc.co.jp/>



FSCでは、森林管理のための10の原則と56の規準を設けています。認証を受けるには、持続的に木材資源が収穫できることだけでなく、生物の多様性の保全、災害防止への貢献、地域社会への長期的・多面的な貢献も求められるのです。FSCはその会員の合意により作成された原則・規準やガイドラインに基づき、森林の認証機関の評価、認定、モニターを実施します。実際に森林の認証・審査を行なうのはFSCにより認定された認証機関で、計7機関あります(アメリカ2、イギリス2、カナダ1、オランダ1、スイス1)。認証には、①森林管理の認証と、②加工・流通過程の認証(Chain-of-Custody, CoC認証)の2種類があります。

## 世界の森林問題ニュース

### 【5月3日 強風がロシア極東の山火事を広げる】

ロシア極東ハバロフスク地方アムール、ナナイスキー、その他地区に通じる森林地区が山火事となっており、連絡道路は制限されている。現在、2,510ヘクタール以上が火に包まれ、今後も更に広がるものと思われる。「山火事は旅行、釣り、薬草を収集してきた人など森の利用者の不注意と無責任が原因で発生した。」と森林局ゲナディ・グレッグ局長は言った。アムール、コモソモリスク、ナナイスキー、Verkhne-Bureinsk は、山火事で最も危険な地帯であると報告されている。現在、ブルドーザー19台、トラクター11台、他車両10台と437人が消火にあたっているが、強風の影響で消火活動が遅れている。2日からすでに他にも1,000ヘクタールの森に山火事が広がっている。

### 【5月13日 ブラジリアマゾンの保護地域をおびやかす法案】

新しい森林法案が草稿されるなか、ブラジルは以前の森林保護を強化する公約に弱腰な態度をみせている。現在の法案では、開発される際に熱帯雨林として保存されるべき土地の面積を80%から50%に削減することになる。この法案が通った場合のブラジル熱帯雨林に与える打撃を報告した環境保護団体のEメールは、届かない状態にある。これは法案が可決されることで利益を得る何者かの影響力を示唆している。ブラジルの大統領はこの法案を否認しているが、保証はない。

グリーンピース・ブラジル支部は、この法案に抗議するため会議の行われるビルの前にトラック一台分の木片をおろし、「私たちの森をゴミにしないで！」と訴えたポスターを上げた。

この法案は、世界最大のアマゾン熱帯雨林を脅かすものである。農地化や伐採から守られている森の面積をも縮小し、又ユーカリやマツなどの原産でない植物の植林をゆるしている。

### 【5月17日 ブラジルの大統領、アマゾンを守るための「対決」を誓う】

ブラジルの大統領は、現在開発中の土地の中の保護区を80%から50%に縮小する法案を否決するために対決することを述べた。この法案はブラジルの国民の間では、あまり取り上げられてはいない。多数の農業、アマゾン開発に利害のからむもの、要請で、法案の擁護者は、熱帯林保護を働きかけている環境保護団体を悪者に仕立てようとしている。

環境保護団体は、この法案が「世界の肺」として莫大な酸素を生み出す世界最大の熱帯雨林、アマゾンを破壊することを深刻に加速させるだろうと言っている。

アマゾンのジャングルには、およそ世界の動植物の50%の種が生息している。面積はフランスの2倍以上。

熱帯雨林の伐採、破壊は1995年当時の12,000平方マイルから、1999年の6,800平方マイルへと徐々に減少している。

環境保護団体は、アマゾン流域にすむ農業労働者による侵入が進むことで、世界最大の熱帯雨林の面積が縮小することだけでなく、その周縁の農地化によって、生物の多様性が脅かされることにも危機感を抱いている。

### 【5月19日 ブラジルの環境保護運動、森林を守り、歴史的な勝利】

昨夜のブラジル国会で指導者たちは、提案された法律はアマゾンの森林伐採を拡大させるものであるとして廃案すると決定した。環境保護団体 Environmental Defence は、以下うまくとりまとめた文書を送付した。「昨日、Eメールやファックスを送ってくださった全ての方に感謝します。ブラジルにいる私たちの仲間、国際キャンペーンがもたらした大きな影響力と皆さんと一体となって働きかけたことがこの成果を生んだものと感じています。これは大きな勝利を意味します。」

抗議のEメールとファックスが大量に国会、大統領、マスコミ宛に送られ、ブラジルの環境保護、草の根グループが結束して、この法案を議会に持ちこまれる前に廃案にした。初めての屈辱的な敗北は、ブラジルの環境保護運動が牧場経営者の強力な利益団体まで影響を及ぼしたことを示している。

この記事の詳細については、下記を参照のこと。  
[sschwartzman@environmentaldefense.org](mailto:sschwartzman@environmentaldefense.org)  
Steve Schwartzman 202-387-3500

[adriana@socioambiental.org](mailto:adriana@socioambiental.org)  
Adriana Ramos 011-55-61-349-5114

以上、'WORLDWIDE FOREST/BIODIVERSITY CAMPAIGN NEWS'より抜粋。



〈連載〉

## 真・日本林業論

—日本と世界の森林を守るために—

徳島県熱帯林問題研究会 猪俣 栄一

### 第7回 針葉樹造林と水問題

—山村のアンケート結果から—

#### 1. ちょっとおさらい

この2回程、森林に降った雨がどういうメカニズムで循環していくかということ、徳島大学工学部の端野教授の研究をモデルとして見てきました。

そして自然林と呼ばれる雑木林の山と、人工林と呼ばれるスギやヒノキの一斉造林地とでは、この水循環がどのように変化してくるかということも調べてみました。

その結果、スギやヒノキといった針葉樹の一斉林では、広葉樹自然林に較べて

- (1) 森林に達した雨のうち、林冠で遮断されてそのまま大気中に戻ってしまう遮断蒸発量が多い。全降雨量に対する蒸発量の割合は最大20%にも達する。
- (2) 従って流域内河川への流出量、地下の深い場所への浸透水の量は減少する。
- (3) その結果、洪水時のピーク流量がそれだけ減少し、洪水被害を低減できる。
- (4) その反面、無降雨時の渇水現象が増大する。

といった作用が起こってきます。

このうち洪水ピーク流量の減少は人間社会にとって好ましいことですが、夏季の渇水は下流域にいろんな悪い影響を与えます。

こういう現象のことをひっくり返して、山に住む人達は「スギが水を飲んでしまう」と表現するのです。

ただ、この端野教室の研究結果は、人工

林への改植後の蒸発・蒸散量と、改植前の自然林の状態における蒸発散量との、実際の量的な比較ができていません。

また、一雨の遮断蒸発量や蒸散量が、実数として簡単に把握しきれないという難点もあります。

更に、森林の水収支とは関係ないことながら、急傾斜地における表層流の変化と、それに起因する表層土壌の流出や、浅い部分の山腹崩落に与える影響等をどう表記するかというような問題点も残っています。

それと前号の図-2(12ページ)で、遮断量調整後のカーブと、実績流量のカーブとが、あまりにも一致しすぎる点も気になります。

しかし従来、どちらかというとい好い加減に扱われていた蒸散と遮断蒸発とを厳密に分けて解析した点や、スギ、ヒノキ、に改植された後の経年変化を解析した点は極めて有意義だと思いますし、山村に住む人たちが何となく感じていた「スギが水を飲んでしまう」ということを積極的に確認したことは評価されるべきだと思います。

#### 2. スギが水を呑む話(山村アンケートの結果から)

以上の点を違う角度から見てみましょう。

私は、徳島県の林業地帯に入って、長い時間をかけて、スギが水を呑む話を中心に、

山村の人々が現在のスギ改植をどのように考えているかという点についてのアンケート調査を行いました。

このアンケートは、四国地方における林業実態調査の一環として、徳島県の林業地帯全域において、林業関係者を対象として行ったアンケート調査の中から、人工造林後（改植後）の水環境に関する意識調査の部分だけを抜き出してみたものです。

この調査の特徴としては

- (1) 調査期間が長いこと
  - (2) 対面調査ではあるが、単純な問答式の聞き取りではないこと
  - (3) 一人あたりの調査時間が長いこと
  - (4) 調査対象者は、単なる雑談をしていたと感じているだけで、調査の対象になったという意識を持っていないこと
- 等があげられます。

たとえば、通常のアンケートのように、○×式で三択とか五択制という設問の仕方は全くしていません。

農山村へ入り込んで、林業労務者やごく零細な農家林家の人達、森林組合の職員や役場の職員（たいていの場合、多少の農地や小面積の山林を持っている人達が多い）と言った人々と、時間をかけて林業に関するいろんな話題をジックリと話し合いました。

おもしろいことに、法人林家や森林組合の作業員の人達、或いは県有林の間伐や枝打ち作業等のように、数人が一カ所にまとまって仕事をしているケースよりも、農家林家と呼ばれる零細な山林所有者とか、公団の仕事をしている人とかのように、一人で黙々と山仕事をしているケースの方が多く、そういう人達は話しをはじめると仕事の手を休めて、いくらでも話に乗って来てくれました。

一人きりの山仕事は、さみしいし、退屈だし、仕事そのものがあまり時間を切られ

ている訳でもないし、それにあまり楽でたのしい仕事でもないということで、こちらの気が引ける程、長時間話し合った人も随分おりました。

また、それをきっかけにして親しくなり、後日その人の家まで尋ねて行ったり、こちらから頼みごとをしたり、逆に頼まれたりしてつき合いが深まり、3年も5年もつき合っている人もあります。

ですからこの調査結果は、単なるバイトを雇った一過性の調査とは異なり、いま山村で生活している人達が、心の底では何を考えているかという本音の部分聞き出すことができたものと、自負しています。

その基礎データは次の通りです。

- ① 調査期間  
昭和54年～平成9年に至る18年間
- ② 調査対象地域  
徳島県のうち次の地域  
イ. 吉野川右岸全域（祖谷水系を含む）  
ロ. 勝浦川水系、鮎喰川水系の全域  
ハ. 那賀川水系の全域  
ニ. 海部川水域の全域
- ③ 調査方法  
対面間接方式
- ④ サンプル総数  
188名（但し設問内容によりサンプル数は変動する）
- ⑤ サンプルの構成  
表1及び表2のとおり

### 3. 山村の人達が感じていること

アンケートは、自然林を皆伐してスギ、ヒノキの一斉林に改植した結果の全般に対するものでしたが、その中から、水問題に関する項目だけを抜き出してみますと、下記のようになりました。

アンケート結果

設問 1

スギ人工林への改植後、最も目立つ日常生活への影響はなんですか（調査対象者を40才台以上に限定。従ってサンプル数173名）

- (1) 自宅で生活用に使っていた谷の水量が減った。 67名
- (2) 谷の水が降雨時に濁るようになった（特に初期） 22名
- (3) 無降雨が半月以上続くと、谷水が全くなくなるようになった 24名
- (4) イノシシ、シカ、サルが家の廻りの田畑に以前よりもよく出てくるようになり、農作物の被害が増えた 33名

- (5) 特に不便な程の影響なし。但し山全体として確かに水気が減ったと思う 38名
- 合計 184名

註 サンプル数と回答数の差11名は(2)と(4)と(5)の重複回答による

設問 2 ((1)~(3)の回答者に対して)

谷水の減少、質の悪化に対して、どのように対応しているか(113名)

- (1) 違う谷からホースで引水している 11名
- (2) 数軒が共同で遠い谷からホースで引水を始めた 23名
- (3) 集落毎の簡易水道を設けた（公共事業として） 71名

表 1 職種内容別

		サンプル数	割合	備考
法人林家経営者 役員及び職員 森林組合職員		(人) 13	(%) 6.9	調査時は全員が 非現業職
法人林家、公団 森林組合等の 常備労務者		38	20.2	
自営	専業	8	4.3	
	兼業	21	11.2	農家、林家
非常備 労務者	専業	18	9.6	
	兼業	43	22.9	殆どが土木作業員
その他		47	25.0	小売業、年金生活者 (林業労務経験者) 役場職員
合計		188	100.1	

注. 非常備の兼業のうち8名は女性 その他のうち5名は女性

- (4) 谷の途中に小さな水溜め用の堰を造った(個人で) 5名  
 (5) 井戸を掘った 3名  
 合計 113名

- (7) 何とも言えない 6名  
 合計 188名

設問 3 (設問2の回答者に対して)

改植に際し、谷水に影響が出ると予測しなかったか (113名)

- (1) これ程水が濁れるとは思わなかった 43名  
 (2) 一時的にかれてもすぐ回復すると思った 30名  
 (3) 親(先代)がしたことなので、よく判らない 22名  
 (4) 深く考えなかった 18名  
 合計 113名

設問 4 (サンプル全員に対して)

スギ林に変えると山の水分が減ると言うが、なぜだと思うか (188名)

- (1) スギ自体が水を飲んでしまう 73名  
 (2) 皆伐が原因 41名  
 (3) スギは広葉樹より根が浅いので、保水力が少ない 39名  
 (4) 広葉樹林に較べて腐葉土が少ない 20名  
 (5) 土地が乾燥するから 6名  
 (6) わからない 9名  
 合計 188名

設問 5 (サンプル全員に対し)

山の水を回復する対策はあるか

- (1) 皆伐せず、択伐とする 66名  
 (2) この次に植える時は半分を広葉樹とする 41名  
 (3) これ以上スギ植林はやらない 27名  
 (4) 家の裏山だけでも広葉樹を残すようにする 16名  
 (5) スギ造林をやめる訳にはいかない。簡易水道の整備を進めてもらう 21名  
 (6) 水源涵養保安林整備を促進する(スギ造林はそのまま) 11名

設問 6

スギ改植と水の関係について、上記以外に感じていることは。

- (1) 広葉樹林の方が水がうまい 82名  
 (2) 台風時、スギの方が倒木が出やすい(特に20年生位) 68名  
 (3) 大雨時、スギ林の方が小谷が荒れやすく、谷から土砂が出やすい 51名  
 (重複回答) 合計 201名

表2 年齢構成

年代	サンプル数	女性
20才未満	0	
20才代	2	
30才代	13	1
40才代	44	5
50才代	58	2
60才代	37	1
70才代	21	4
80才以上	13	
合計	188	13

4. アンケートに表れたもの

このアンケートは、設問は私の方で考えましたが、回答はこちらで作ったものは全くありません。すべてフリートークの中から生まれてきたもので、つまり山の人達自身の考えであり、言葉なのです。

これを見ると、山の人達が林野庁や県の担当の役人も真っ青という鋭い観察力や考え方をもっていることが判ります。それこそ何十年も毎日山で暮らして来た体験から生まれたものであり、役人達は却ってこの人達に学ぶべきだと思います。

つづく



まだまだ続く...  
 エクアドルでのボランティア

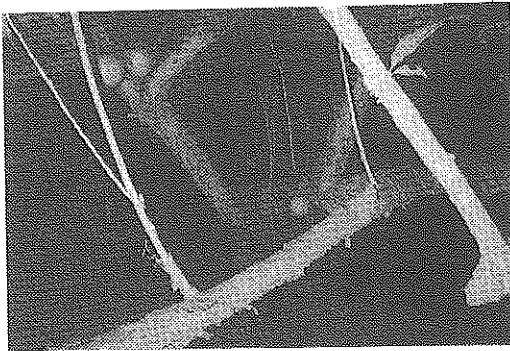
# BAHÍA DE Caráquez

バイア デ カラケス  
 99.6.8 ~ 99.7.3 (うち、1週間は  
 他の土地へ)

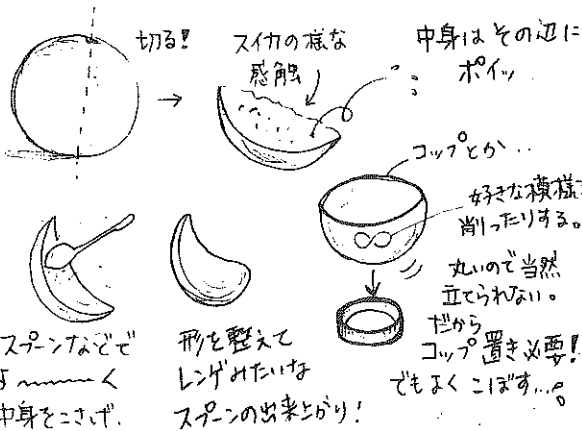
話は、前号のつぎとなりますので、ぜひ前号も合わせて  
 お読み下さいませ。 にしほらくはニ。

前号で、その土地で採れる物(植物)を使ってお土産  
 などを作っているお話をいじと思いましたが、その  
 続きで MATE = マテ という大きな実を使った食器  
 を紹介します。これは、リオムチャコのボランティア  
 受け入れの一家が使っているもので、全ての家で  
 これが使われているわけではありません。😊

MATE



木のまたに ポン・ポーン、とついているのがマテ。  
 Xロソ〜スイカ(小)くらいの大きさ。中身は食べられず、  
 外の皮を使って コップや スプーンやおわんを作る。



さて、いよいよ私が今回一番働いて、指かつ  
 ってもお勉強になった。  
**インカレナシオン**での体験談です。

## インカレナシオンとは?

- ★ バイアの町からバスで15分くらいの郊外にある。
- ★ エビの加工場とセットの農地である。
- ★ 社長はアメリカで有機農業を学んできたらしい。英語はパラパラだった。
- ★ インカレナシオンという名は社長の1番目の妻の名前からとった、というウワサがある。

住所)

Encarnación, Agroecología  
 Av. Velasco Ibarra, km. 4.5

番号)

593-5.691412 ~ 398709

月~金 7:00 AM - 16:00 PM

土 6:00 AM - 12:00 PM

お昼休み 12:00 PM - 13:00 PM

意外にもキッチンしている

何をしても、とか、モクッし知りたい方は  
 西村まで。

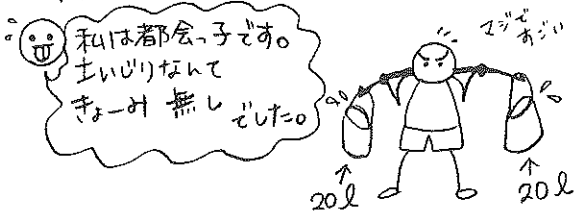
朝6:00頃起きて コーヒーとパンも台所立ち食い  
 した後、テクテクとバス停へ。約15分でエビ工場  
 の入口に着く。

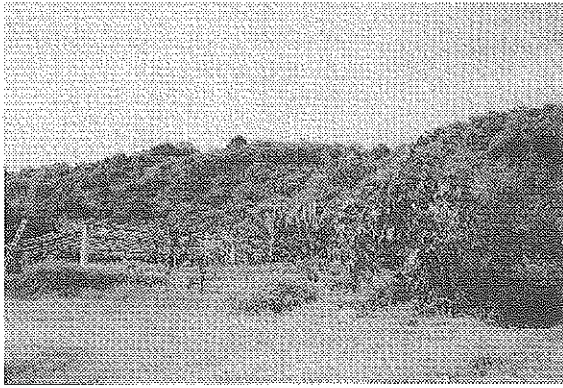
農地は工場のうしろのひと山なので マンテン  
 バイクがあれば 便利。

ここでは 様々な物が 無農薬で作られている。

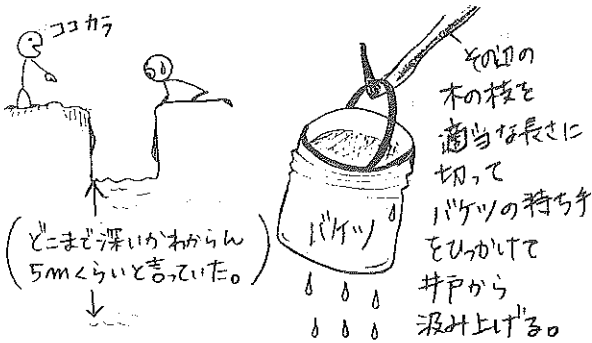
- 果物は、バナナ数種類、パッションフルーツ、オレンジ、メロン、スイカ etc.
- 野菜は、キャバス、レタス、ブロッコリー、カリフラワー、にんじん、とうがらし、モロコシ、豆、チンゲン菜、玉ねぎ、ねぎ、花、ハーブ類、みつばち、みみず etc.
- その他

私がとても驚いたことは、たぶん昔の日本も  
 していたであろう方法で農作業をしていること。  
 それこそ ナタ1本で穴掘りや草刈りや、  
 杭や枝打ちをしている! す、ニ——!!





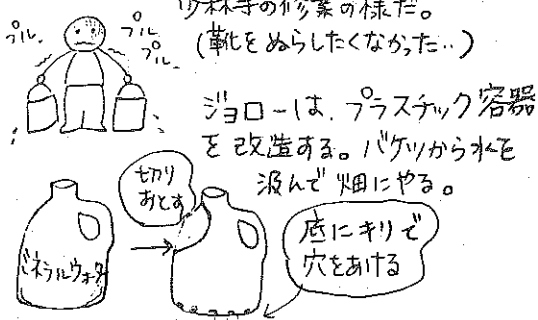
いろいろ仕事させてもらったが、水やりが一番キツかった。1杯20L入るバケツに、半分もくみと腕がチルチルし、バランスをとるため両手にバケツを持つが、靴にビチャビチャ水がこぼれ、畑にたどり着く前に無くなりそうだった。  
 水は地面に空いた穴から汲み上げる。



めっちゃめっちゃ重い...

初めは汲んでもらってたけど、少しずつ自分で汲める様になった。でもやはりバケツ半分が限界であった...

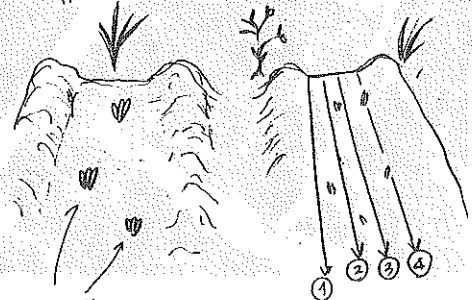
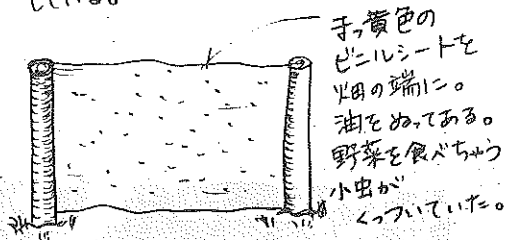
少林寺の修業の様だ。  
 (靴をぬらしたくなかった...)



バケツ1杯の水なんて、キャバツ4~5個にかけたらもう終り... 何度も何度も畑と井戸を往復した。

インカレサシオンで働いているのは、大学出のセルビオ28歳と、20年25才くらいの男の子4人、おじ様方4~5人が平均です。(ほとんど一日中穴掘りしたり、水やりしたり、42種、草刈りと肉体的労働...。私は彼らの筋肉にホレた。

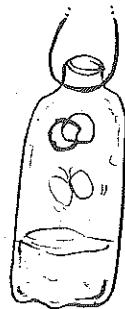
さて、畑についてですが、無農薬なので害虫対策が大事だが、自然の力を利用している。



どろどろに虫の嫌う草を植える

お互いがお互いの害虫を寄せつけない様な組み合わせで植える。

- ① = にんじん
- ② = ちんげん菜
- ③ = しもぎや
- ④ = にんじん



ペットボトルに穴を空け、畑のそばの木に吊りつけておく。茶色い液体はバケツからとれる酢らしい。人間にはめっちゃくさいけど、9月を過ぎにくるネムヤガなどにはいい匂いらしい。  
 入れるけど出られない

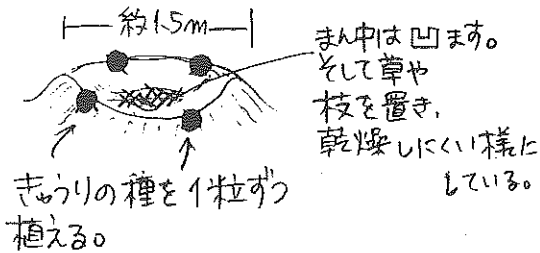
プラスチック用器をゴミにしないで  
いろいろ利用しているのに 感心してしまった。  
エクアドルで 缶ジュースというものは  
あまり見かけなかったが、(自販なんてない)  
ペットボトル地獄で、水を買う度に  
空ペットボトルがゴミになる。

水道水が飲めないって ゴミが増えるん  
だなあ。でも沸かして 飲んでたけれども。  
前にも ちびと書いたけど エクアドルの人は  
ゴミを窓から ペイペイ 投げ捨ててあげる。

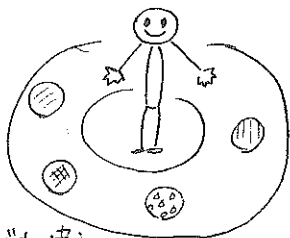
オレンジやバナナの皮なら いいけど、  
お菓子の袋とか ペットボトルとか  
自分のケロの入った ビニール袋とか  
平気でバスの窓から ペイッと捨てる。  
後ろの車に ケロ袋が当たったら どーあるんや。  
(そういう問題じゃない!!)

一語をエンカレシオンに戻す

エンカレシオンではなぜか **円** が多い。



ハーブも、円形に  
植えている。



それぞれ違うハーブ

バナナも 円形に植えられる。

直径約 2m の円  
まん中は凹ませて、肥料となるエビの頭、  
草や葉をまん中に集める。  
1つの円に 5本のバナナが植わっている。


どうして円なのか?  
よくわからないが "マングラ" という  
単語が出たので、宗教的なものなのか?

どう言えば、種を散く日、収穫する日を  
月の満ち欠けによって決めているらしい。  
なんかアヤシ... (??) と思っていたが、  
後日、新聞見てたら


"農業" のページに 1ヶ月の月の満ち欠け  
が載ってて、この日は種をまく日、  
収穫の日、草抜き日、枝打ち日、  
土ならしの日 など コメントされていた。  
—と、言うことは、これはエクアドル中で  
捨てることなのか!?

農業に詳しい人、教えて。

だんだん農作業にも慣れ、  
筋肉もついてきたが、どうしてもダメな  
ものがあった。

それは **ケムシ**   
パッションフルーツは 週に2回、火曜と  
金曜に収穫するが、その時、ついでに  
毛虫退治もせねばならない。でも、  
どーしても ムリ! まっ黒な国まりとなっ  
ている毛虫達を見つける度に  
リス、来てム!! と叫んでいた。

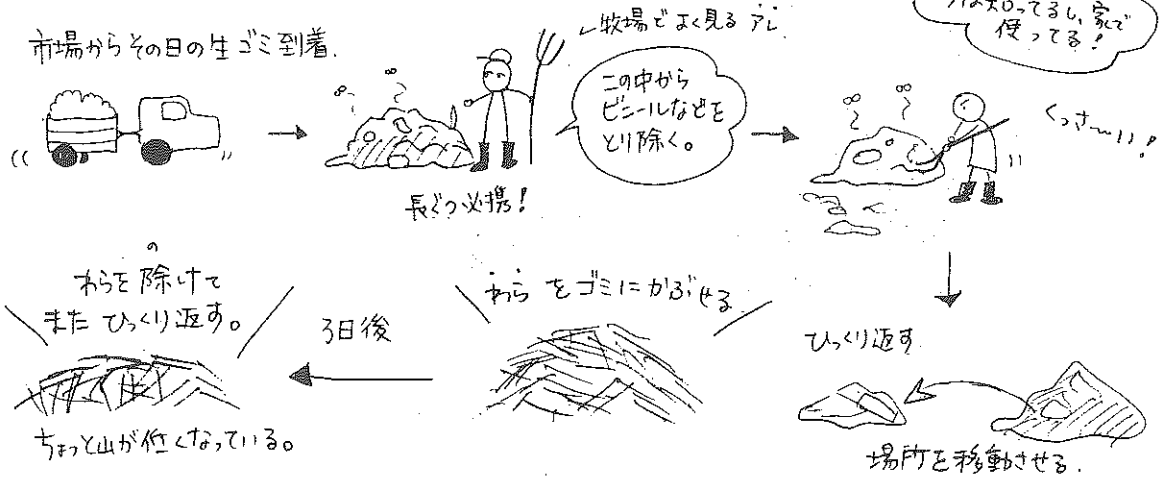
毛虫ならまだいいけど

作業中に 猛毒ハゲ 出てきたぞ。  
リスは もうケジで 噛まれるところだった。  
しかも パッションフルーツには ハチが多く、  
リスは 3ヶ所 刺された。 コワイかも 

# El abono orgánico se elabora en 15 días

新聞の「農業」のページの見出し  
「有機肥料は15日でつくられる」

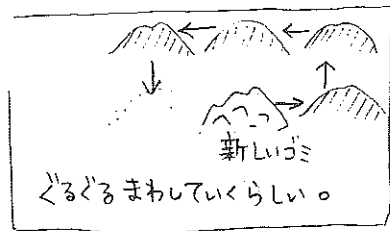
インカレシオンでは、化学肥料を使わない。有機農業をやつて実験しているところなのだけれど、その肥料の元は市場から毎日運ばれてくる野菜くずなどのゴミである。私は農業については無知なので、「へえ〜。すごーい!!」と、感心したら、「この方法は日本から来たのよ」とニュージーランドのニコラさんが言った。知らなかった……ポカシ、なんて言葉は…



3日に1度ひくり返して混ぜて、水分(水)や、栄養をやる。栄養は、マラサと呼ばれる黒砂糖の蜜の様なもの。でも、マラサはお金がかかるので、マラサ無しで良い肥料が作れないかと、試している。

市場自体小さいので、ゴミも日本の市場程出ないけれど、上の作業をたいてい一人でやるのでかなりしんどい。1日仕事だ。水分を含んだ野菜くずは重い。半日手伝ったけど、くたくたで逃げ出した。

ゴミ捨て場は、バスケットボールのコートぐらいもないくらい。



1週間ぐらいたつたゴミからは、わらを除けると湯気が出る。色もくろくろしている。

ここではコープ神戸が「エコフォーム」で、上の様な堆肥作りをしているし、関西エコロジーセンターでも始まると聞いています。エコフォームには見学に行きましたか、さすが日本。ちゃんと工場されていました。まだ返しもたぶんショベルカーでやっているのでしょうか。屋内で全て処理されています。やっぱりニオイはキツイが。一度見学に行かれていますか。また、インカレシオン神戸版、という感じですが。

ひらがなが多くて  
ごめんなさい。

次はマングローブ林、エビ池について書きます。



# Mizu space

## 生活を体で再確認するMIZUスペース 「エコマテリアル展」レポート 野池政宏

MS建築設計事務所は、大阪の千里ニュータウン内にある千里事務所(三澤康彦)と大阪市内にある本町事務所(三澤文子)の2カ所を拠点としている。この本町事務所に今年からMIZUSPACEという生活の展示スペースが生まれた。溢れる情報の中で何を大切にすべきなのか、建築をつくるために最終的には手で触ったり匂いを嗅いだり、といった体で確かめることが必要だ。そこでまず今年は「炭と環境社」を主宰し、住まいの中の化学物質に詳しい野池政宏さんをお願いして、エコマテリアル展を行っている。以下、野池さんに今回の展示についてコンセプトを語ってもらった。

(三澤文子)

建材を選ぶ際には、その健康性や環境調和性に配慮する必要がある。このことを認識している人はかなり増えてきたものの、基本となる認識や知識を持って建材選びをしている人は少ない。

今回MIZUSPACEにおいて開催された「エコマテリアル展」では、まずこの基本的な認識や知識を持って実際の建材を見てもらう流れにした。具体的には、各建材部位・素材ごとに、健康性を軸にした建材評価(使ってよいかどうか?)を行い、それに環境調和性に関する評価を付け加えたものを提案させてもらった。

私はこれから家を手に入れようとする人の相談を受けたり、また多くの造り手と話をする中で、このように「その軸と根拠を明確にした具体的な建材評価」と「実際に建材に触れられる場」を強く求めていることを感じてきた。数多く出ている関連書籍などの情報に対する信頼性に疑問を抱く人は多いし、かなりの数に上ってきた「エコ建材」と呼ばれるもののサンプルを取り寄せてみることは相当な作業になってしまう。ただよく考えてみると、客観的であり、かつ

具体的な情報を集める場を作るというのはなかなか難しいものである。公共施設などでは商品カタログを置くような形はとれないであろうし、またメーカーの展示場では客観性に欠ける可能性が高い。

そういう意味で今回の展示はかなりユニークな位置にあると思う。いや、MIZUSPACEそのものの位置がユニークであると言うべきであろう。おそらくこれまで設計事務所に入ってくる人というのはかなり限定された種類の人たちではなかったか?そしてそのことは設計事務所が本来持つべき社会性にそぐわないことではなかったか?

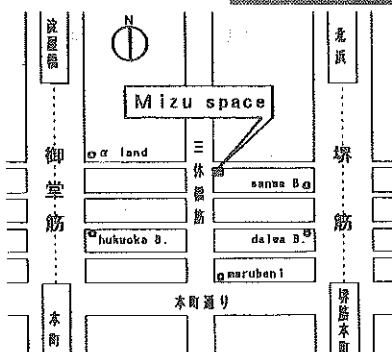
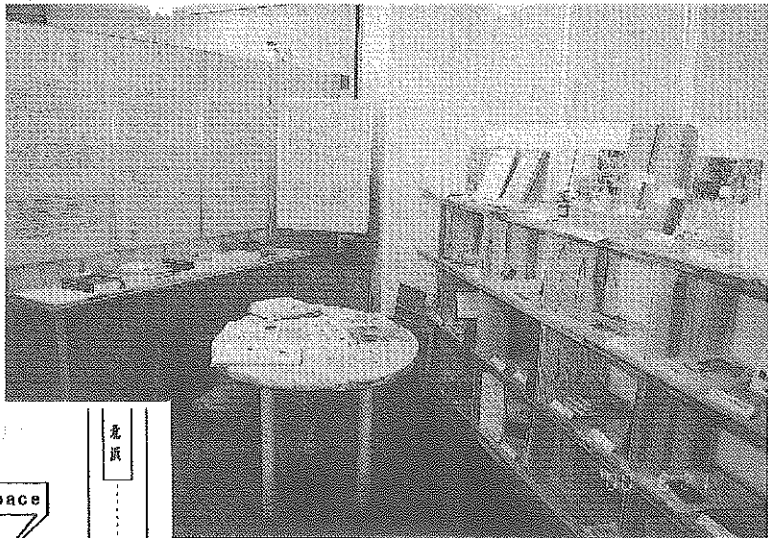
MIZUSPACEは設計事務所の新しい可能性を秘めているように感じる。大手ハウスメーカーの展示場に違和感を感じている人のためにできることも多いであろうし、また様々な立場の造り手が集まることで生まれるものの価値も高いであろう。木構造住宅研究所はこれまでもMOKスクールなどの取り組みで垣根を越えて情報を共有しようと努力してこられたが、次のステップに進んだことで、我々が期待するものがますます大きくなってきた。のいけ・まさひろ/炭と環境社

# エコマテリアル展

環境に  
配慮した  
「エコ建材」  
を……

- ◆見る。
- ◆触れる。
- ◆知る。
- ◆調べる。
- ◆使う。

小さなスペースに  
たくさんのサンプル  
や資料が置いてある。  
勉強になるよ!  
アロにも見てほしい。



2000・4・20(木) — 12/25(月)  
土・日・祝日休み / 10a.m.~7p.m. / 入場無料

大阪市中央区淡路町 2-6-5 井上ビル 3F 木構造住宅研究所  
tel 06-6201-1037 fax 06-6201-1038  
e-mail morkoken@osk2.3web.ne.jp  
http://www2.osk.3web.ne.jp/~morkoken/index.htm

# 山造り やります



▲「愉快な山仕事」講座中の島崎氏

## 森の本紹介

いつだったか？ 今年の3月頃、NHKで「森のドクター」というドキュメンタリーが放映されたのを番組欄で見つけて観た。

又、山仕事の紹介がうらやましく思っていたのだが、みているうちにどんどん引き込まれてしまった。

その人は島崎洋路さんという人、信州大学を退官された後、誰からのしがらみも受けない生活と自分の信念にもとづいて、荒れた森林(人工林)を健全な森にもどすための奮闘している姿を追ったものでした。



是非  
一読を!

99.12.08日初版  
川辺書林 ¥1,650

島崎洋路(しまざき・ようじ) 昭和3年長野県駒ヶ根市生まれ。昭和26年信州大学農学部助手、同林学科教授を経て平成6年退官。その後、KOA森林塾、島崎山林研修所(山林塾)などでの指導と並行し、中小規模の民有林で数多くの山造りを実践する。農学博士(京都大学)。伊那市在住。

拡大造林の時期に植林された杉松の森がほたたらがしにされ荒れ放題になっている森の治療は「伐って伐って、伐りまくる」ところから始まるのも興味を引く。

現在島崎さんの元には全国各地から志ざしをもつ人たちが集まり、島崎さんの「山造り」の指導を受けている。

彼らの力は小さいが確実に成果を上げ、今の森林の問題を提起し、その解決にはどうすればいいかが明確にされています。

国の政策をじっと待つてはおれない！今の現状を少しでも良くするために島崎さんの元で指導を受けている山造りのプロが全国各地で活躍する日が来ることを祈って頂きます。

\*私が録画しているビデオを  
みてもいい方はご連絡下さい。  
コピーいたします。

(Tel. Fax. 072-881-4939)  
夜回のみ 永田健一

今回もよしの  
記事になった  
……。

間伐。太く、まっすぐ伸びる木を育てるために大切な作業だ。その間伐材を道路舗装の資源に活用しようと、全国を駆け回っているJ・C・コンボット（大阪市）の岩田藤夫社長（71）と出会った。

山道を歩くと、日本の国土の3分の2を占める森林が急速に衰えていると実感することがある。間伐しないまま放置された山

# 間伐材にかける

細長い木が伸び、見るからにひよわい。風や雪の被害にも遭いやすい。担い手の高齢化、後継者不足、安い外国産材の攻勢……。このまま日本の林業が衰退したら大変なことになる。

岩田さんの試算によると、毎年4000万立方メートルの間伐材が有効活用されないまま放置されている。この無限とも言える資源を使わない手はないと、商品化を狙った。

まず、道路舗装。網上のシートに長さ6センチに輪切りにしたスキの間伐材を並べて接着。すき間に砂を入れ、合成樹脂をかけて固める。この工法だと、水はけが抜群に良く、アスファルトばかりで水の逃げ場がな

## econo こちら梅田3丁目 eye

い都会にも向く。災害防止にも役立つ。既に東北や四国の自治体などから引き合いがきているそうだ。

林野庁は緊急対策として、今年度から5年かけて計150万立方メートルの間伐に乗り出した。全国の民有人工林の2割近い規模になる。行政の後押しに岩田さんの商品がマッチングしたら面白い。岩田さんは全国の歩

道すべてを木にしたいと意気込む。

次に狙うのは30億〜40億本もあるといわれる線路の枕木。以前はクリやクスギが使われていたが、今はコンクリートに変わった。こちらも全部木に戻すのが夢だ。壮大な計画だが、主張は一貫している。石油や石炭は元々は木。地中に眠っていた木を掘り起こすから問題が起きる、自然のままの木を生かすべきだと。

中小企業のオヤジは発明家であるべし、が持論。貧乏しないものは考えられん」と豪快に笑う。おかげで、山歩きのために間伐の状況を見ることになりそうだ。

【塩田 敏夫】

## 会計から……

藤村はるえ

INFORMATION

【会費、カンパを頂いた方々】（2000年3月1日〜6月13日）

鶴川まき 梅尾文子 加賀瀬みどり 児玉かずみ 五味義明 佐藤重子 志儀真由美  
菅原玲子 田村美智子 田村義彦（大台ヶ原・大峰の自然を守る会会長） 千賀美樹子  
中島紘 西園千春 西谷陽子 橋本征二 平井英司 深町加代子 福本敬夫  
本田次男 水田哲生 宮澤朔子 宮沢千恵子 渡辺裕夫（敬称略）

【裏返し古封筒、記念切手をいただいた方々】

井下秀子様 春日美恵子様 他

ありがとうございました。

〈お便りから〉（敬称略）

★（前略）今でもちよっとしんどいけれど、西岡さんの継続的がんばりを少しでも支えたくて会費を送ります。今年2月5日、エル大阪で松井やよりさんの「経済のグローバル」による大被害、弱肉強食の世相が蔓延してきている話、いっぱい聞きました。そのなかにスマトラ、ボルネオ、マレーシア森林伐採の話も聞きました。（後略）（梅尾文子）

★ご無沙汰しています。会報をいつも楽しく見せていただいています。

（加賀瀬みどり）

# HUTAN ACTION SCHEDULE

\*7/8(土)11:00~『徹底討論・WTO in Osaka』 / 所: 弁天町市民学習センター  
参加費/(前売)1200円, (当日)1500円 JR弁天町下車  
主催/「徹底討論・WTO」ウィーク関西実行委員会  
連絡先/AMネット ☎06-4800-0888  
(ウータンでの前売券は西岡まで☎&Fax 0722-52-0505)

## スピーカー

- ☆チー・ヨーク・リン(第三世界ネットワーク/マレーシア)  
マレーシア地球の友、世界熱帯林運動コーディネーターなどもつとめる。
- ★ロニー・ホール(地球の友UK/イギリス)  
環境保全と途上国開発問題の国際キャンペナー
- ☆神田浩史(AMネット)  
佐久間智子(市民フォーラム2001)ほか



## \*『森林どんぶり』

- ★どなたでも参加できる「森林問題」の講座です!
- ☆場所/アジア・ボランティア・センター(☎06-6376-3545 阪急梅田駅より徒歩3分)
- ★時間/どちらも午後7時から 参加費/600円

○9月8日(金)「紙は神様」

●10月13日(金)「悪い植林? いい植林?」



## ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36  
サクラビル新館308  
「関西市民連合」気付  
Tel.06-6372-1561

{一部}300円 {年会費}3000円

{郵便振替}00930-4-3880

- ◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
- ◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。